

1

1 病院

2 細やか

3 放送

4 屋根

5 橋

6 倍

2

1 (記述題)

2 A 一日

B 自分

C 同音

(2B「得手」も可)

(3 完答)

3 ② エ ア ウ

4 ウ

5 まっ先

6 エ

7 生き物係に

8 きらわ

3

9 イ

10 ウ

11 先生も横か

1 花粉をむ

2 A な

B も

C た

D ん

3 害虫

4 ③ エ ウ ア

(4 完答)

5 I エサ

II 節約する

6 ウ

7 およぶ

8 ところで

2

1 休みのあいだ、だれが世話をする

(同意可)

配点	
1・2・3	各2点×13=26点
2	6点
その他	各4点×17=68点
〈計〉100点	

1

- 1 「病」は「まだれ」ではなく「やまいだれ」である。細部までいねいに書こう。
- 2 「細」は訓読みが複数存在する漢字である。「こま(かい)／こま(か)」のほかに「ほそ(い)／ほそ(る)」もある。
- 3 「放」の右部分の二画めと三画めを続けて「フ」としてはいけない。「送」の「しんにょう」部分は三画である。
- 4 「根」の最後の二画を「く」のようにならないよう、一画ずつはつきりと書こう。また、右側を「良」としないようにしよう。
- 5 「橋」の部首は「のぎへん」ではなく「きへん」である。
- 6 「部」と形が似ているので気をつけよう。

2

- 1 なぜ「二組では、さつきから話しあいが進まない」のか、「教室で飼っている生き物」について「なかなかきまらない」のは何なのか、疑問を持ちながら文章を読み進めていこう。
① を含む一文よりあとを読んでいくと、だれが引き受けるかでもめているということがわかるだろう。答えの中心は「だれが引き受けるか」ということになる。
- 2 A「一日千秋」は、一日が千年のように非常に長く思われること。B「自分勝手」は、自分の都合だけを考えること。C「異口同音」は、みんなが口をそろえて同じことを言うこと。
- 3 海外旅行へいくらしい先生は自分が引き受けることさえなければいいと思っているので②には「知らん顔」が、「無理はいえなくなってしまう」顔なのだから⑤には「泣きそうな顔」が、川村がきらわれていることを気にしているそぶりは見られないので⑩には「平気な顔」がはいる。
- 4 「だれかがぐやめちやいますか」とカモッチが教室を見まわしながらいつているときに、目があつてしまうと自分がその「だれか」になってしまふと思つているのである。
- 5 ⑥の()の前後を手がかりにしよう。「ぼくが()せいで」とあるので、トカゲを飼いはじめるときに、ぼくが何をしたのかに注意しながらさがしていこう。
- 6 クラスのみんなが川村をあてにしていることは事実だが、このタイミングでカモッチが「あきらめ顔」になる理由としては不適である。何とか話しあいでトカゲを引き受ける人をきめようとしていたのだが、うまくいかなかったのである。
- 7 生き物係の男子ふたりは、「生き物係に引き受けてもらうしかない」という発言に対して強く反発しているが、川村の答えを待たずにカモッチはぼくに引き受けさせようとしている。もちろん、川村が引き受けるわけがないと判断してのことであろう。
- 8 ⑧の一文中の「遊ぶ相手もない」が大きな手がかりになるだろう。
- 9 「すぐ外の地面に落ちた」という表現や、川村がトカゲを投げたあとのぼくの反応から考えよう。
- 10 自分が「まっ先に賛成した」ことをわすれて、「いいかげんにきめろよな」と思つたり「おれは知らないからな」といつて川村の机に飼育箱を置いたりする姿から責任感を感じられないだろう。
- 11 脱文補充の問題では、まず⑨の一文に手がかりがないかを考えよう。発言が先生のものであること、土田くん(ぼく)が引き受けることになっていることから、まず⑩の一文に手がかりがないかを考えよう。発言が先生のものであること、土田くん(ぼく)が引き受けることになっていることから、まず⑩の一文に手がかりがないかを考えよう。そして、文章中の流れのおかしいところがないか、確認していこう。

3

- 1 「昆虫に蜜を与え」て「昆虫に花粉を運んでもらう」といつた助け合いがどのような形で始まつたかをさがしていこう。「こうして、昆虫によつて花粉が運ばれたのです」といつた表現も手がかりになつただろう。
- 2 間違えたものがあつた場合はそれぞれのことばの意味や使い方を確認しておこう。A「なかなか」はあとに「ない」などの打ち消しのことばをともなつて、「かんたんには／＼とつてい」の意味を表す。
- 3 「花粉をエサにするために花にやつてき」た昆虫なのだから「植物」にとつては好ましくない存在だったのである。マイナスの意味を持つ漢字をイメージしながらさがしてほしい。
- 4 「ハチやチョウは、花の蜜を吸う」がその当時は「まだ地球上に出現して」いなかったもので、③には「ただし」が、「エサの花粉を食べあさつて花の中を動き回」つたあとに「飛び立っていく」ので、④には「そして」が、「コガネムシの仲間」に花粉を運んでもらう花の例として「モクレン」があげられているので、⑤には「たとえば」がはいる。
- 5 昆虫にとつての花粉がどのようなものであるかは「花粉をエサにする」「花粉をむさぼり食う」「花粉を食べられた」といつた表現からもつかみやすかつただろう。⑥の一文の「花粉の量を」といつたことばに注目できれば、「風で」で始まる段落に、昆虫に花粉を運んでもらうことによる「得」が書かれていたことに気がついただろう。
- 6 植物と昆虫の助け合いの関係がどのように始まつたかを考えよう。
- 7 通読する際に本文の違和感にきちんと気がつけるように丁寧に読み進めてほしい。「およばない」は「かなわない／＼肩を並べることができない」といつた意味である。「人間の知恵がおよぶ(肩を並べることができない)くらいによくできている」だと意味が通じないだろう。
- 8 一つめは植物と昆虫がどのように関係を築いてきたかについて、二つめは最初に花粉を運んだ昆虫について書かれてあつた。